

令和6年度

地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの充実

保谷第一小学校 1年生

西東京ふるさと探究学習

単元名： きせつとなかよし
(活動名)

ねらい：

- ・屋敷林の自然物にはたらきかけ、冬の様子について気付いている。
- ・生き物や樹木、草花を観察し、それらとの関わり方を工夫している。



広場や草地では、秋見つけビンゴとして、赤や茶色、ぎざぎざ、秋の音、木の実など、秋ならではの植物や花を見つけました。「もみじ、緑だったけど、上の方は赤くなっていてきれいだね。」と、木や葉の紅葉の様子を感じ取っていました。



お気に入りの葉っぱや木の実を見つけて、オリジナルかんむりを作りました。保存会の方に気になった実がセンリョウだということを教えてもらい「この実はしっかり赤くて、おいしそうだね。」と楽しそうに会話をしていました。

野草園では、秋冬の植物を見つけました。葉を裏側にめくったり、実を振って音を出したりと、様々な方法で確かめていました。前回興味をもったハンゲショウは枯れ「寒さはだめだったか…」とその姿を悲しそうに見つめていました。



まとめコラム

「派手な植物ある！前来た時あったかな。これ名前は何？」『ムサシアブミ』の実だよ。」「ブツブツして握ったら気持ちよさそう。色がきれい。触ってみたい。」「中は毒だから、優しく触って、そのあとは手を洗おうね。」「えー！」屋敷林保存会の方への質問は留まることを知らず、止めどなく溢れてきていました。疑問に思ったことを、諸感覚を使って確かめて、学びを深めることができました。

